

エレクトリック・カーライフ NOW



Spatial Audio



Nostalgia

【特集】

AVS

Audio Visual Safety

Stable Operation



Car Security



Multi View

Sound Design



用品後付けで可能になる
音響・視覚・安全
クラスアップ MENU



セーフティ Safety [安全]

イモビライザー



自動で守る、 スマートな安心 離れるだけでON、 近づくだけでOFF

保安基準適合品の高信頼モデル

自動にオン／オフ！

携帯するスマートフォンによるBluetooth認証の仕組みを利用し、車両からの距離約2mを境に、近づけば作動オフとなり、離れたらオンになる仕組み。オンにし忘れてノーガードとなるリスクも避けられ、オフのし忘れてうっかりアラームを鳴らす不安もない。認証に使用するスマートフォンは計4台まで登録でき、ファミリーカーにもうってつくだ。



オンオフ動作も不要！ 進化する後付け防犯装置

かつては後付け品でこそ可能だった盗難防止装置も、今では純正装備が当たり前。この流れによって一度は

落ち着いたようにも見えた盗難被害も、ここに来て再び増加傾向にある。

一方的な悪意の前に、純正装備でできることには限りがある。高度さを逆手にとる巧妙な悪用手口が広まりつつあることは、頻繁に報じられるニュースの通りだ。

そこでいま、市販後付け用品に再び注目が集まりつつある。手口化された手法が通用しづらい独自のガード機構は、プロとはいえども一筋縄では行かない。さらにガードの数が増す分、突破に要する時間はかさみ、見つかるリスクを最小限にしたい悪意の前では敬遠されやすいとも言われる。

ただその分、ユーザー自身も、乗車のたびにセキュリティのオンオフ作動を行う必要があるなど、多少なりとも日々の使用で身構える必要があったのも事実。そんななか、このネックを解消する画期的な製品がこの夏、カー用品市場に新たに加わる。

本製品の要となる機能が、Bluetooth認証。ペアリングしたスマートフォンを持つだけで、クルマに近づけばオフ、遠ざかればオンと、盗難防止装置の作動に対して特段の操作を必要としない。これまでなかったその機能はまさにスマートで、他に類を見ない後付け用品と言える。

安心をもっと手軽にする 高性能カーセキュリティ

その製品の名は「iVIPER（アイバイパー）スマートイモビライザー」。高度な後付けセキュリティシステムとして名高い「バイパー」の通信機能オプションとして、これまでもすでに商品設定されていたものの、このたびユニットを持つ製品としてリブランド。単独で動くイモビライザーシステムとして、従来にない選択肢となる。たとえCANインベーターやキーエミュレーターなどの巧妙な手口で車両をハッキングし、不正にエンジン始動を試みたとしても、全ての攻撃を無力化する防御力に優れている。

専用のアプリを必要とせず、一番最初にBluetoothウースのペアリングを済ませておけば、日常運用でユーザー自身がすることは特にならない。一般的になりつつあるスマートキーと同様に、特段の操作を必要とせず、まさにハンズフリーの使い勝手が可能になる。とかく雨の日や、両手が荷物で塞がっているケースなどでそのありがたみは増し、作動のし忘れというリスクも軽減できる。

気になる動作安定性も、国際規格を管理するグループ（SIG）の技術

イモビライザー機能を超える 発展拡張もお手の物

iVIPERには、スタンダードモデルである『IMB-20』に留まらず、機能発展の伸びしろも用意されている。既存セキュリティシステムのVIPER／HORNETと連動するアッパークラスの『IMB-30』はもちろん、別売りの通信ユニット『iV5』を追加すれば車両の異常をスマートフォンに通知させることも可能になる。



別売りオプションとなるiVIPER通信ユニット『iV5』（価格：4万3780円）は高精度GPSを搭載する。車両の位置情報を確認できるほか、万一盗難された際も自動位置検索機能によって素速い追跡が可能。使用に際しては月額利用料が必要で、月額利用料550円で位置検索が可能だ。



『IMB-20』のメイン機能に加え、ドアのこじ開けを感知できるドアトリガーも搭載し、VIPER／HORNETの各本格セキュリティとの連動も図れる『IMB-30』もラインアップ。セキュリティラウンジ名古屋での実勢価格は16万910円。通常20万円を超えがちなシステムキットと比べても、導入コストはかなり手頃となっている。



『IMB-30』には、本邦初登場となるアクリルスキャナーも付属。七色に設定できるカラフルなLEDはインパクトも大きく、セキュリティ作動をより声高にアピールできる。

最新の盗難手口対策にも有効

iVIPER

スマートイモビライザー IMB-20

価格：オープン（実勢価格：14万1680円）

※セキュリティラウンジ名古屋での取り付け
技術料込みトータル価格



2つのモデルからなるiVIPERのスタンダードモデルで、イモビライザー機能に特化。リレーアタックやCANインベーターに、キーエミュレーターやイモビカッターといった最新の盗難手口から不意のエンジン始動を防ぎ、不正アクセスを検知した時点で最大90dBのアラームを発動する。警戒時の平均消費電流は約7mAと、一般的なカーアクセサリが20mAなのに対し、かなり小さめ。-40～85℃の温度に対応し、酷暑での使用にも耐えられる。

イモビライザー



保安基準適合品

一般社団法人 全国自動車用品工業会により、国土交通省が定めた保安基準に適合。イモビライザーの認証マークを取得済。



IMB-20・IMB-30 Bluetooth SIG 201-260079

技術基準・ 国際規格にも適合

Bluetooth SIG (Bluetooth Special Interest Group)が定める国際規格の技術仕様に適合するほか、無線機器に表示する電波法の技術基準にも適合し、いずれも認証マークを取得している。



イモビライザー作動中であることを視覚的に表す付属のLEDランプは、整備入庫時など、一時的に機能制限を掛ける際のプログラムスイッチも兼ねている。写真では見えやすい位置に設置しているものの、基本はハズフリーで運用できる仕組みのため、隠れた場所に設置しても日々の使用に支障はない。

「そもそも「走る止まる曲がるに關する部分は触らない」と丸山店長は信頼度は極めて高い。

既存の本格セキュリティシステムに追加できる汎用性はもちろん、このアイバイパーを元にさらに機能を付加する拡張性も備えるなど、懐の深さも白眉。もちろんカーセキュリティに事前知識のないビギナーにとつても、絶好の入口となること請け合いだ。

仕様に適合し、しかるべき認証を取得していることから不安はない。もちろん電波法令で定められる技術基準を満たす「技術マーク」や国土交通省が定める保安基準にも適合する。コンプライアンスを重視しているカーディーラーにも理解を得られやすく、車両そのものの保守運営でも心強い。何より、手掛けているのはセキュリティ機器の専門企業である加藤電機であり、製品開発には開業以来21年間、施工車両の盗難件数ゼロを誇る同社直営のセキュリティラウンジ名古屋の知見が活かされる。海千山千が跋扈していた黎明期のカーセキュリティとはそのレベルからして別物。



小型のユニットには、エンジン始動を防止できる装置を2つ搭載。万が一、片側の装置を突破されたとしても、もう片方が活着している限りブロックは活きる。この二重の備えは、保安基準に適合する前提条件にもなっている。

セキュリティラウンジ名古屋 丸山武志 店長



5月から発売開始されたiVIPERも、8月からを目処にオートボックスやイエローハットといった大型用品店で購入できるようになる。そこでのサポート役を務めるのが、実績あるセキュリティ専門店「セキュリティラウンジ」であり、キーマンでもある丸山店長。購入店舗を問わず、アフターサポートの面でも心強い。